

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 18 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530216

研究課題名(和文)アーサー・レオン・ボウレイの研究 - マーシャル経済学の継承とその展開 -

研究課題名(英文)A study of Arthur Lyon Bowley: an inheritance and development of Alfred Marshall

研究代表者

近藤 真司 (Kondo, Masashi)

大阪府立大学・経済学部・教授

研究者番号：50264817

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1919年にロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで最初の統計学教授になったアーサー・レオン・ボウレイ(1869-1957)の統計学方法論を取り上げ、マーシャル経済学の継承と展開を検討した。マーシャルは、経済学研究の初期には経済理論の数式化を図り、演繹法に関心を寄せていたが、彼は若い時から生涯にわたり統計資料など事実の蒐集・整理・分析を行い、これらの分野の仕事を高く評価し自らの研究において重きを置いていた。ボウレイは彼の影響を受け、社会改良のため統計学の社会科学への応用を考え、応用経済学の発展に貢献した。彼がマーシャルの応用経済学分野の継承者であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I study a statistical methodology of Arthur Lyon Bowley(1869-1957), an inheritance of Alfred Marshall(1842-1924) and development of his economics. It was said that Marshall had formulated economic theories early in his career, he might have employed a deductive methodology. However, throughout his academic career, from his days as a young scholar to late in his life, Marshall was interested in research factories and in industry, and he collected and analysed data, statistics, and facts on these topics. Under his influence, Bowley considered the application of statistics to the social sciences for the improvement of society. Bowley had a first seat of Statistical Professorship (1919) at London School of Economics. Under Marshall's influence, Bowley considered the application of statistics to the social sciences for the improvement of society. In this way, he contributed to the development of applied economics, suggesting that he was more a follower of Marshall's applied economics

研究分野：社会科学

キーワード：ケンブリッジ学派 マーシャル ボウレイ 経済学方法論 統計学方法論

1. 研究開始当初の背景

本研究では1919年にロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(以下LSE)で最初の統計学教授になったアーサー・レオン・ボウレイ(Arthur Lyon Bowley, 1869-1957)の統計学・経済学方法論をとりあげ、マーシャル経済学の継承と展開を検討した。ボウレイはケンブリッジのトリニティ・カレッジへ数学を学ぶために進学したが、マーシャルの影響を受け社会改革との関連から経済学の研究を始め、レディング大学を経てLSEの教授になる。彼は統計学分野、経済学分野において多面的な研究業績を残している。マーシャルにも統計学研究が存在し、自らの経済理論の現実への応用に関心を持っていた。

マーシャルは、応用経済学の分野にも関心を持ち、自らの経済学の体系において重要な足跡を残している。しかし、この点に関してはマーシャル経済学の中で主要なものであるという位置づけは十分になされていない。応用経済学において貢献した人物にも注目する必要がある。これまで主としてマーシャルの応用経済学の側面について研究を行ってきた。その過程において、マーシャルの統計学への貢献ならびに応用経済学の後継者について明らかにする必要性がでてきた。

マーシャルは「統計のグラフ的方法」(1885年)という論文を書き、彼の著作の至る所で統計研究の重要性とその必要性を述べている。統計の役割を重要視していた経済学者としてマーシャル以外にジェヴォンズもあげられるが、統計学を社会科学に適用し数理経済学の発展に大いに貢献した人物は、ボウレイである。マーシャルはエッジワースはじめ多くの経済学者に、数学を経済学を使うときには慎重になるように助言していることはよく知られている。また、マーシャルはボウレイの著作に対して書評や手紙を書き、彼の統計学や経済学に対して自らの考えを述べている。

ボウレイが統計学の社会科学への適応、統計学の役割と限界を踏まえ経済学の発展に貢献し、統計学を中心として多面的な業績を残し得た背景には、マーシャルとの関係が重要であると考えられる。そこで、マーシャルとボウレイの統計学・経済学方法論が重要になってくる。しかし、統計学的側面のマーシャル研究と経済学的側面からのボウレイ研究は十分になされているとは言い難い。

2. 研究の目的

ボウレイは社会改良のため、統計学の社会科学への応用を考え、そのため統計学理論をつくり、応用経済学に貢献した人物である。また、彼は理論的な分野に貢献したケインズやピグーとは違い、マーシャルの応用経済学分野の継承者であり、統計学的手法を経済学分野に活かした開拓者でもある。LSEにおいては、マーシャル経済学の影響力は大きくないと理解されるが、統計学の分野においては

マーシャルの伝統も継承されていることを明らかにした。

ボウレイは、マーシャルの影響を受け、「1860年から1891年までのイギリスの平均賃金の変化」という論文をまとめ、マーシャルが創設したアダム・スミス賞を1894年に受賞している。これをもとに、『王立統計学会誌』に一連の論文を投稿している。マーシャルは彼の業績として、経済学者が自らの理論を検証できる事実を提供したことを高く評価している。さらに、ボウレイは、『統計学要論』(1901年)『一般教養の純粋経済学』(1913年)『経済学の数学的基礎』(1924年)等の統計学や数理経済学のための書物も残している。彼は、研究面においては社会科学とくに経済学における統計的手法の開拓者として、その後の経済統計学並びに計量経済学に貢献しているので、彼の統計学的方法論をマーシャルとの関係から明らかにする必要性があった。

ボウレイに関しては、イギリスのダラム大学のダーネルの数理経済学の分野からの一連の研究が存在するが、経済学説史において十分に位置づけがなされていない。また、A. Dale & S. Kotzは、ボウレイを多面的な視点で捉えた研究であるが、ボウレイの分析に重点が置かれ、マーシャルやケンブリッジ学派との関係、学説上のボウレイの位置づけについて十分に言及はされていないので、マーシャル経済学の継承と展開の考察が必要であった。

ボウレイは、研究面においては社会科学とくに経済学における統計的手法の開拓者として、その後の経済統計学並びに計量経済学に貢献している。ボウレイの経済学研究へのきっかけとしてマーシャルの影響が大きい。彼の統計学的方法論をマーシャルとの関係から明らかにする必要性があった。

ボウレイが多面的な研究業績を残した背景にもマーシャルの影響が大きかったので、その点を明らかにした。

3. 研究の方法

研究期間においてボウレイの統計学・経済学方法論をとりあげ、マーシャル経済学の継承と展開を検討する。海外・国内の学会(平成24年・25年・26年)において報告すること、さらに、その論文を海外雑誌に投稿することを目的として研究計画と方法を用意した。

平成24年度にLSEのボウレイ文書の調査を行い、ボウレイの著作目録を作成した。R.G.D. AllenとR.F. GeorgeによりJournal of the Royal Statistical Societyに著作文献目録を作成しているが、彼の業績すべてのものを網羅されていない。これまでの調査により、かなりの量の文献の追加が必要であることがわかり、追加の著作目録を作成した。さらに、検討して著作目録の精度を上げ、完成させた。

マーシャルの統計学・数学的方法論の検討ボウレイの主要著作とマーシャルの著作と関係が重要になってくる。最初に、マーシャルの統計学ならびに数学的方法論の再検討を行い、初期の論文である「統計のグラフ的方法」(1885)「一般物価の救済策」(1887)とその関係をまとめた『貨幣信用貿易』を検討した。このことからマーシャルの統計学への考え方・統計学方法論を明らかにした。

ボウレイの著作の統計学方法の検討として、ボウレイの著作である『統計学要論』(1901)、『統計学入門』(1910)、をもとに、ボウレイが社会科学とくに経済学への適応をどのように考えていたのかを明らかにした。ボウレイの著作に対して、マーシャルが書評を寄せ直接ボウレイに手紙を書いて、自らの方法論について述べている。

4. 研究成果

平成 24 年度は、アーサー・レオン・ボウレイ (Arthur Lyon Bowley, 1869-1957) の統計学・経済学方法論をとりあげ研究を進め、その成果は、**平成 24 年 9 月に北海道大学**で開催された**経済社会学会全国大会**で報告を行った。コメントをもとに報告原稿に修正を加え、原稿を投稿し採択され、『**経済社会学会年報 XXXV**』(平成 25 年 9 月出版)に掲載された。

本報告では次の 3 点が明らかになった。最初に、ボウレイはマーシャルの統計の考え方を継承し、LSE において統計学教育を行った人物である。彼は統計学の役割と限界を踏まえ、経済学の発展に貢献した。ボウレイが数学者から経済統計学者へと転身を遂げた背景には、マーシャルの影響が大きい。マーシャルが必要を感じながらも、自ら手をつけることができなかつた統計学分野を開拓した。第 2 に、ボウレイの LSE での統計学教育に関する貢献である。彼は LSE の開学当初から教育に携わり、その後、統計学講座の最初の教授職に就き統計学教育を行ったことが、その後の統計学教育の発展に大きく寄与した。マーシャルがケンブリッジで応用経済学分野の発展を望みながらできなかった学問分野がいち早くボウレイによって LSE で実現された。第 3 に方法論に関してマーシャルとボウレイが共に社会改革という共通の目標を持ち、経済学における統計の重要性と経済統計学の発展の認識を共有していた。彼らは統計データの蒐集と整備の必要性を強調し、ボウレイはこの点に関して大いに貢献を行っている。両者の相違点は、マーシャルは帰納法が演繹法を一体のものと考えているのに対して、ボウレイは帰納法と演繹法を分離するものと考えている点である。

平成 25 年度は、上記の論文において、ボウレイの方法論の研究をさらに推し進め、**ウエスタン・オーストラリア大学で平成 25 年 7 月 4 日～6 日に開催された経済学史学会**(The History of Economic Thought Society of

Australia) で **A Study of Methodology on Arthur Lyon Bowley** というタイトルで報告を行った。

本報告でのコメントを参考に研究をさらに進め、**平成 26 年 5 月 29 日～31 日までスイスのローザンヌ大学で開催されたヨーロッパ経済学史学会**(The European Society for the History of Economic Thought) **において、A Study of Methodology on Arthur Lyon Bowley and Alfred Marshall** というタイトルで報告を行った。本報告においては、マーシャルとボウレイの統計学方法論の比較検討並び両者の継承関係について、検討を加えた。

両報告をもとに、**A Study of Methodology on Arthur Lyon Bowley and Alfred Marshall 'Osaka Prefecture University, Discussion Paper New Series No.2014-2, March 2015 をまとめた。**

研究の過程において、最近のボウレイ研究である Andrew I. Dale and Samuel Kotz の Arthur L. Bowley: A Pioneer in Modern Statistics and Economics を検討し、本書の内容に関して『**経済学史研究**』55-1 (2013 年 7 月) に書評としてまとめた。上記の研究に関して、ボウレイを多面的な視点で捉えた研究であると評価し、ボウレイの分析に重点が置かれ、マーシャルやケンブリッジ学派との関係、学説上のボウレイの位置づけについて十分に言及されていないと評した。

さらに、マーシャルの方法論の研究として、『**マーシャルと有機的成長**』(柳田芳伸・龍泉俊介・近藤真司編著『マルサス ミル マーシャル - 人間と富の経済思想』, 昭和堂, 2013 年) というタイトルの論文において、マーシャルの研究の初期から晩年までの彼の経済学に関する著述から有機的成長を明らかにし、その方法論にまとめた。

その内容に関しては、2014 年 8 月 29-30 日尾道大学で開催された近代経済学史研究会・経済思想史研究会の合同研究会で報告を行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

Masashi KONDO 'A Study of Methodology on Arthur Lyon Bowley and Alfred Marshall 'Osaka Prefecture University, Discussion Paper New Series No.2014-2, March 2015.

近藤真司「アーサー・レオン・ボーリーの統計学方法論 マーシャルの方法論の影響を中心にして - 」『**経済社会学会年報 XXXV**』, 現代書館, 2013 年 9 月, pp. 145-153. (査読あり).

〔学会発表〕(計9件)

近藤真司「マーシャルにおける知の創造と継承」ケインズ学会 2014年12月14日 大阪府立大学I・siteナンバ(大阪).

近藤真司(討論者)藤井賢治「マーシャルにおける組織 - 生産の経済学からの再評価 - 」ケインズ学会全国大会 2014年11月29-30日,立教大学(東京).

近藤真司(討論者) Atsushi KOMINE ' *Keynes and his Contemporaries: Tradition and enterprise in the Cambridge School of Economics*, 2014, Routledge '. 経済学史学会関西支部会 2014年11月22日 龍谷大学(京都).

近藤真司 「『マーシャル』:合評会 柳田芳伸・諸泉俊介・近藤真司編著『マルサス ミル マーシャル - 人間と富の経済思想』昭和堂,2013年11月」近代経済学史研究会・経済思想史研究会 合同研究会 2014年8月29-30日 尾道大学(広島).

Masashi KONDO ' A Study of Methodology on Arthur Lyon Bowley and Alfred Marshall ' European Society for the History of Economic Thought 2014年5月29日-31日 the University of Lausanne, Switzerland.

Masash KONDO (discussitant) Monika Poettinger ' The Methodenstreit and the Waning Influence of French Liberalism in Europe in the 1870s ' European Society for the History of Economic Thought 2014年5月29日-31日 the University of Lausanne, Switzerland.

近藤真司 (討論者) 小峯敦「1910年前後における経済学トライポスの改訂--マーシャルの設計とケインズ等の実施」ケインズ学会全国大会 2013年12月7日-12月8日,専修大学神田校舎(東京).

Masashi KONDO ' A Study of Methodology on Arthur Lyon Bowley ',History of Economic Thought Society of Australia, the 26th conference, July, 2013年07月04日-2013年07月06日 University of Western, Perth Australia.

近藤真司「マーシャルとボウレイの統計学方法論」経済社会学会全国大会,2012年09月01日-2012年09月02日北海道大学.

〔図書〕(計1件)

近藤真司「マーシャルと有機的成長」柳田芳伸・諸泉俊介・近藤真司編著『マルサス ミル マーシャル - 人間と富の経済思想』昭和堂,2013年11月,pp.204-232.

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

近藤真司 「書評: Andrew I. Dale and Samuel Kotz, *Arthur L. Bowley: A Pioneer in Modern Statistics and Economics*, New Jersey: World Science, 2011, xv+525頁.」『経済学史研究』2013年7月55-1, pp.110-111.

近藤真司 「書評: 小沼宗一『経済思想史 マルサスからケインズまで』創成社,2011年4月, xi+132頁」『マルサス学会年報』22号, pp.95-99.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近藤 真司 (Masashi KONDO)

大阪府立大学・経済学部・教授

研究者番号: 50264817

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: